

平成 28 年度 算数科教育にかかわる現状と課題

部長 速水 紳

1 算数科教育の動向

(1) 研究主題に見る変化

① 県内 21 郡市小教研で、昨年と研究主題が全く変わらないのが 12 郡市。変更した 9 郡市を見ると、「一人一人の学びを深める」(上越)、「一人一人の確かな学力を育成する」(加茂)など、より確かな学力の向上に目が向いている。「主体的・協働的な学び(アクティブラーニング)の具現化」(柏崎・刈羽)のように、明らかに次期学習指導要領を見越していると思われる研究主題も見られるようになってきた。

② 子どもに付けたい力という視点から

研究主題に、子どもに付けたい力をあげているのが 11 郡市である。

今年は新しく「一人一人」を大切にしている視点が見られた。上記の上越、加茂、そして魚沼(「どの子にもわかる喜びを実感させる」)などにそれが見られている。

率直に「学力向上」をあげるのは、去年の 3 市から佐渡市だけとなった。去年と変わらず「思考力(・判断力)・表現力の育成」を目指すのは、糸魚川、長岡三島、村上、阿賀野、東蒲原の 5 郡市。十日町中魚、燕西蒲は、変わらず「活用力の育成・向上」を図っている。学ぶ意欲の育成には、小千谷、南魚沼、新発田北蒲の 3 郡市となっている。新潟は今年も「算数を愉しむ」という姿を描いている。

③ 研究の対象という視点から

子どもに力を付けるために「授業づくり」「授業改善」「授業の工夫」などと授業改善を主題としているのが、11 郡市と全体の半数に近いが昨年より減った。「算数的・数学的活動」の工夫あるいは在り方と、より絞っているのが、今年も柏崎刈羽、長岡三島、燕西蒲。見附は、「全国学力・学習状況調査の誤答を活かす」という独特の視点からの授業改善を図っている。授業力・指導力といった教師の力量向上を追求しているのは、南魚沼、胎内に五泉が加わった。新潟、東蒲原は、目指したい子ども像を研究主題としている。魚沼は、「温かい学級づくり」という視点を加えた。

(2) 活動内容に見られる傾向

① 授業研究・協議会の実施

21 郡市のうち、14 郡市で小教研会員の授業研究を実施している。昨年より 3 郡市ほど減っている。授業技量の向上のために、積極的な授業研究を大切にしたい。

② 講演会の実施

10 の郡市で主題に沿った講演会を行い、2 郡市では示範授業や模擬授業の形をとった。年間を通してあるいは昨年に引き続いての、同じ講師を呼ぶのが目立った。

③ 小中連携による研究活動の実施

小中連携し研究活動が進む郡市も増加している。(柏崎・刈羽、糸魚川、妙高、加茂、十日町中魚、見附、胎内)の 7 郡市。3 郡市の授業研究は中学校の数学であった。

2 算数科教育の課題

今年度は、次期学習指導要領の改訂を見越して、アクティブラーニングやそのあり方について研修を深める郡市が見られた。小中連携による学力向上の取組が進む郡市も目立った。新指導要領では、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から、算数科においても様々な改善が必要となる。算数科で付けたい力は何か、どのような授業によってその力がつくか、その力を付けるためにどのような教師力が必要か等を検討し、「不易と流行」を見定めて研究実践に当たっていくことが求められる。